

雜誌

經濟雜誌第十一

田島錦治

(三十五) 第二及ヒ第三ノ白耳義

(三十六) 國際上ノ正義及ヒ慈仁

(三十七) 煤烟ト猜疑ノ雲

(三十八) 發明者ノ昨今

(三十五) 第二及ヒ第三ノ白耳義

昨年(大正六年西紀一九一七年)物故シタル佛國經濟學ノ泰斗 Paul Leroy-Beaulieu ハ晉テ一警語ヲ下シテ曰ク

「一ノ白耳義在リ二ノ英吉利在リト (Il y a deux Belgique, il y a deux Angleterre) 是ハ白英兩國

カ密ニ其領土ノ表面ニ於テ殷富ナル商工業及ヒ 豐饒ナル農業ヲ有スルノミナラス其地底ニ各種ノ豐富ナル鑛脈ヲ有スルコトヲ指斥セルニ外ナラス (同氏 Précis d' Economic Politique, 1887. p. 22.)

今ヤ歐洲ニ於ケル白國ノ領土ノ大部分ハ夫ノ國

際公法ヲ無視シ國際條約ヲ故紙視セル橫暴殘虐ナル獨鬼ノ蹂躪スル所トナリ白人ハ僅カニいふるノ一角ナル彈丸黒子ノ地ヲ保有スルニ過キサルハ吾人聯合國民ノ共ニ痛憤ニ禁エサル所ナリ實ニ第一及ヒ第二ノ白耳義ハ其海外植民地ノ外ハ殆ント總テ獨軍ノ爲ニ或ハ破壞セラレ或ハ彼ノ利用スル所トナリ謂ユル敵ニ假スニ豐富ナル糧食ヲ以テシ特ニ慘鼻ニ禁エサルハ同國ノ住民ニシテ敵ノ壓制ノ下ニ在ル者ハ敵ノ爲ニ各種ノ強制的勞役ニ服シツツアルコト是ナリ

然レトモ余ハ更ニ一語ヲ下シテ言ハントス曰ク「尙ホ第二ノ白耳義在リト」是レ他ナシ燃ユル如キ愛國心ヲ有シテ尙ホ奮闘シツツアル白耳義人はレナリ余輩ハ彼等カ其努力ニ依リ聯合國民ノ協戮ニ頼リ竟ニ其第一及ヒ第二白耳義ヲ恢復スルノ期ノ必ス遠カラサル可キヲ確信ス否此事ノ成就セサル限リハ吾人ハ決シテ戰爭ヲ中止ス可カラサルナリ

(三十六) 國際上ノ正義及ヒ慈仁

るろわ、ぼうりゆう氏ハ又曰ク若シ一國民ニシ

テ其國ノ自然的ニ所有スル天然ノ恩惠物ニ富マ
ンカ正義及ヒ慈仁 (La justice et l'humanité) ハ
彼等ヲシテ其天然の恩惠物ヲ他國民ニ分與セシ
ムルコトヲ要求ス而シテ此要求ヲ達スルニ二箇
ノ方法アリ其一ハ國際貿易ナリ其二ハ外國民ニ
向テ警察行政及ヒ後來ノ歸化ノ條件ノ下ニ其國
ニ來住營業スルノ許可ヲ與フル事はナリト (前
掲ノ書二十四頁) 氏ノ言々簡ニシテ要ヲ得タリ
高邁ノ見公平ノ識余ハ之ヲ借リテ我東方對岸ノ
大富強國人士ニ勸告スル所アラント欲ス此國ハ
其天然のニ至テ豐富ナル未墾半開ノ沃野アリ而
カモ其人口ハ猶ホ稀薄ニシテ之カ開墾ヲ爲スニ
足ラサルニモ拘ハラヌ多年來東洋ノ移民ヲ或ハ
禁遏シ或ハ制限シ此等ニ對シテハ白哲人ニ對ス
ルト全然異ナレル差別的待遇ヲ敢テ爲シ永年其
地ニ移住シ在ル者ニ向テヌラ或ハ土地ノ所有權
ヲ奪回セントシ或ハ歸化ヲ絕對ニ拒否セントス
嗚呼是レ果シテ正義慈仁ニ合スル乎
又此國ハ其無盡藏ナル各種ノ鑛脈ヲ有シ居ルニ
モ拘ハラヌ或ハ參戰ノ理由ノ下ニ其產鐵ノ九牛

一毫ヲ吾人ニ分割供給スルヲ拒ミ又自國ニ有リ
餘ル鑛產物及ヒ之カ資源アルニモ拘ハラヌ更ニ
其巨腕ヲ遠ク東洋ニ延ハシテ支那ニ於ケル鑛山
ノ獨占ニ焦慮シ我國民カ自國ニ於テ得ザル所ノ
物ヲ彼地ニ於テ得ントスル正當ニシテ止ムヲ得
サル努力ニ對シテ常ニ妨害ヲ爲スモノノ如シ嗚
呼是レ果シテ正義慈仁ニ合スル乎余輩ハ此天惠
の富強國ニるろわ、ぼろりゆる氏ノ如キ公平高
邁ナル人士ノ輩出センコトヲ望ムヤ切ナリ若シ
是等ノ人士ニ缺如セン乎余ハぼろりゆる氏ノ口
吻ヲ學ヒテ言ハントス曰ク「一米國在リ二米國
在リ然レトモ第三ノ米國無シ」ト

(三十七) 煤烟猜疑ノ雲

或ル英國ノ學者ハ英人ト米獨人トヲ比較シテ曰
ク三國民中ニテ最モ儀式ヲ重ンスルハ獨人ナリ
特ニ上流官邊ヲ甚シトス獨逸ニ於テハ人ヲ紹介
スル爲ノ信任狀 (credentials) ハ絕對ニ必要ナリ
米國ハ最モ儀式ニ疎略ナリ信任狀ハ往々不要ト
ナル英國ハ恰モ二國ノ中間ニ位ス然レトモ英國
人ニ取リ其缺點ト思ハルルハ儀式ニ拘泥ストイ

ハンヨリハ寧ロ其猜疑心ノ深キ事ナリ英國ノ中ニ就キテモ特ニ北部工業地ニ於テハ空氣カ煤煙ノ如キ濃密ナル猜疑ノ雲ヲ以テ滿タサルルヲ遺憾トス此猜疑ハ工業主ト職工トノ間ニ深く存在スルノミナラス比隣セル各商工業間ヲモ亦厚ク遮蔽シテ更ニ外國人ニ對シテ一層甚タシキモノアリよーくしや (Yorkshire) 人ハ特ニ此性格ヲ有ス余ハよーくしや人ナルヲ以テ斯ク言フノ自由ヲ有ス但シ余ハ固ヨリ郷國ヲ愛ス又此ノ如キ忌ハシキ外形ノ内部ニ隠レタル美ナル性質アルヲ知ル者ナリ又前掲猜疑ノ性格ヲ全然有セサル例外的人物アルコトモ亦勿論ナリ英人ハ猥リニ其知人ノ紹介ナキ人ト交ルコトヲ敢テセスト雖知人ノ紹介ヲ重要視スルコトハ他國人ニ過クト實ニ英人ハ輕卒ニ他人ト交際セサレトモ一旦交際ヲ爲シタル上ハ堅實永遠ナリ "Neither in Germany nor in America does an introduction carry the same significance. It is either purely ofmal or quite casual." (Arthur Shadwell, Industrial Efficiency. London 1906. vol. I. p.

6-7)

此英人ノ性格ハ其同盟國民タル我邦人ノ特ニ注意ヲ要スル點ナリト余ハ思考ス余ノ見ル所ヲ以テスルニ吾人ハ英人ノ如ク猜疑心深キ國民ニ非スト雖又彼等ノ如ク堅實ナル能ハス吾人ハ宜シク彼ノ長ヲ取リ我ノ短ヲ舍ツル事ヲ勉ムヘキナリ曰ク富士山ノ如ク堅實ナレ日本晴ノ如ク公明ナレ

(三十八) 發明者ノ今昔

現代ノ發明者ハ發明ヲ遂クル迄ニハ固ヨリ多大ノ困苦艱難ヲ忍ブ者妙ナカラスト雖發明者ヲ保護獎勵スル公私ノ機關ノ具備スル處亦多クコレ有リ例ヘハ大學又ハ研究所ノ如キ營造物アリ海外留學又ハ研究旅行等ニ對スル資金ノ供給アリ且又發明者カ一日發明ヲ遂ケタル時ハ世上ノ尊敬ヲ受ケ一身ノ富榮ヲ博スルヲ常トス然レトモ昔時ニ在テハ發明者ハ童ニ發明前ニ於テ有ユル困苦缺乏ヲ忍ブノミナラス發明後ニ於テモ世人ヨリ迫害セラレテ窮死シタル者甚タ多シ我舊幕時代ニ於テ「新シキ儀ヲ企ツル」ヲ嚴禁シ發明者

ハ國禁ノ切支丹莫天連ノ魔徒ト認メラレタリ。歐洲ニ於テハ其著ルシキ例ニ乏シカラス第十六世紀ニ於テだんちつく市 (Danzig) ハ當時始メテ發明セラレタル紐製造機械 (Bandmühlen, métier à rubans) ノ使用ヲ禁シ發明者ハ人民ニ由リ溺死セシメラレタリ其他英國、和蘭、ふらんだし、瑞西、獨逸ニ於テモ第十七世紀ニ於テハ之ト同一ノ發明機械ハ禁止セラレ獨逸はむぶるぐノ元老院ハ此等ノ機械ヲ破壊シタリ

英國女皇ありざべすハ西紀千五百八十九年ニ於テ織ノ製造機械ノ使用ヲ禁シタリ佛國あんり四世ハ其發明者ヲ保護シタレトモ王ノ崩後ニ彼ハ迫害セラレタリ獨逸ノ鑛業地タルはるつ (Hartz) ニ於テハ政廳ハ木製ノ鞴ノ發明者カ從前ノ革製ノ鞴ノ職工ヨリ受クル迫害ニ對シテ彼等ノ生命ヲ擁護セサルヲ得ザリキ千六百二十三年和蘭ニテハ風力ヲ用フル木挽工場ヲ禁止シタリ又佛國ニテハ其頃ニ機械的鞴 (les soufflets faits à la mécanique) ノ使用ヲ禁止シタリキ

輓近ニ至リテハ始メテ現ハレタル幾多ノ蒸氣船

ハ漁夫ノ爲ニ粉碎セラレ「ジャカール」式織物機械ノ發明者佛人じやかーる氏 (Joseph Jacquard 一七五二年佛國リよんニ生レ一八三四年死ス氏ト同名ノ機械ヲ發明セルハ一八〇一年頃ナリト云フ) ハリよん市ノ工事審理會 (le conseil des prud' hommes de Lyon 同數ノ工主及ヒ職工ヲ以テ組ニ由リテ其寄留所ヲ燒カレ氏自身モ三度生命ヲ失フヘキ危險ニ遭ヒタリ

紡績機械ノ發明者英人ハ一ダグリーナホ (James Targreaves 一七七年死ス其紡績機械ヲ發明セルハ一七六四年頃ナリ) ハ勞働者ノ追窮ヲ受ケテ竟ニ囚厄ノ裡ニ死シタリ

第十九世紀ノ始ニ於テハ英國のつちんがむ (Nottingham) 其他諸處ニリゆつと黨 (the Luddites 一八一一年乃至一八一二年及ヒ一八一六年ニ峰起ス Ludd ト云フ人カ首領ナリ故ニ此名アリ) ト稱スル勞働者ノ一揆起リテ機械ヲ破壊シタリ就中其千八百三十年ニ起レルりゆつと黨ノ一揆ハ新式ノ犁及ヒ改良農具ヲ破壊シタリ是等ノ類例ハ猶ホ多クシテ一々枚擧スルニ遑アラスト雖要スルニ現代文明國ノ發明者ハ前掲ノ如キ外部ノ迫害ヲ受クルコトハ至テ稀ナリ亦以テ進歩セル經濟ト道德トノ合致ノ一證ト爲スヘキナリ